



「fukushimaさくらプロジェクト」は、約1万2000人が来場した。幻想的な映像とともに、オペラ歌手でタレントの森久美子が出演し、復興支援ソング「花は咲く」を歌うなど、震災からの復興に向かって歩み続ける人々にエールを送った。

釜石市「#Thank You From KAMAISHI」を応援 花王グループ

花王グループは、2012年から協賛している「スマイルとうほくプロジェクト」を通じて、岩手県釜石市が中心となり復興支援への感謝の気持ちを世界に発信する活動「#Thank You From KAMAISHI」を



「スマイルとうほくプロジェクト」を通じて、岩手県釜石市が中心となり復興支援への感謝の気持ちを世界に発信する活動「#Thank You From KAMAISHI」を、東日本大震災の復興支援として「心のケア」と「自立の復興（産業復興）」を軸にしながら、独自の社会貢献プログラムやリソースを活用し、現地のニーズや課題に則した支援活動を行っており、東北の未来に向けて、今後もこの活動を継続していく。



「fukushimaさくらプロジェクト」は、約1万2000人が来場した。幻想的な映像とともに、オペラ歌手でタレントの森久美子が出演し、復興支援ソング「花は咲く」を歌うなど、震災からの復興に向かって歩み続ける人々にエールを送った。

花王グループは、2012年から協賛している「スマイルとうほくプロジェクト」を通じて、岩手県釜石市が中心となり復興支援への感謝の気持ちを世界に発信する活動「#Thank You From KAMAISHI」を、東日本大震災の復興支援として「心のケア」と「自立の復興（産業復興）」を軸にしながら、独自の社会貢献プログラムやリソースを活用し、現地のニーズや課題に則した支援活動を行っており、東北の未来に向けて、今後もこの活動を継続していく。

「fukushimaさくらプロジェクト」は、約1万2000人が来場した。幻想的な映像とともに、オペラ歌手でタレントの森久美子が出演し、復興支援ソング「花は咲く」を歌うなど、震災からの復興に向かって歩み続ける人々にエールを送った。

「fukushimaさくらプロジェクト」は、約1万2000人が来場した。幻想的な映像とともに、オペラ歌手でタレントの森久美子が出演し、復興支援ソング「花は咲く」を歌うなど、震災からの復興に向かって歩み続ける人々にエールを送った。

花王グループは、2012年から協賛している「スマイルとうほくプロジェクト」を通じて、岩手県釜石市が中心となり復興支援への感謝の気持ちを世界に発信する活動「#Thank You From KAMAISHI」を、東日本大震災の復興支援として「心のケア」と「自立の復興（産業復興）」を軸にしながら、独自の社会貢献プログラムやリソースを活用し、現地のニーズや課題に則した支援活動を行っており、東北の未来に向けて、今後もこの活動を継続していく。

「fukushimaさくらプロジェクト」は、約1万2000人が来場した。幻想的な映像とともに、オペラ歌手でタレントの森久美子が出演し、復興支援ソング「花は咲く」を歌うなど、震災からの復興に向かって歩み続ける人々にエールを送った。

「fukushimaさくらプロジェクト」を支援 コーセー

コーセーは、東日本大震災の被災地への復興支援の一環として、「fukushimaさくらプロジェクト」に参加し、3月21日～23日に会津若松市鶴ヶ城で開催されたプロジェクトイベントに協賛した。

また、4月7日には、復興のシンボルとして福島県に贈呈された新種の「はるか」を茨城県坂東市の公園、高校に寄贈・植樹した。

「はるか」の植樹活動に取り組んだ。今回は、「坂東市ふる里さくらまつり」の中で贈呈式を行い、その会場である逆井城跡公園に「はるか」を植樹した。贈呈式では冒頭に、坂東市長の木村敏文氏が挨拶を行い、「このはるか苗木に込められた思いが、より多くの皆さんに届き、被災地の支援となることを願っている。今後も皆さんと一緒に、この成長を見守っていきたい」とのメッセージを伝えた。

東市長の木村敏文氏が挨拶を行い、「このはるか苗木に込められた思いが、より多くの皆さんに届き、被災地の支援となることを願っている。今後も皆さんと一緒に、この成長を見守っていきたい」とのメッセージを伝えた。

東市長の木村敏文氏が挨拶を行い、「このはるか苗木に込められた思いが、より多くの皆さんに届き、被災地の支援となることを願っている。今後も皆さんと一緒に、この成長を見守っていきたい」とのメッセージを伝えた。

東市長の木村敏文氏が挨拶を行い、「このはるか苗木に込められた思いが、より多くの皆さんに届き、被災地の支援となることを願っている。今後も皆さんと一緒に、この成長を見守っていきたい」とのメッセージを伝えた。

東市長の木村敏文氏が挨拶を行い、「このはるか苗木に込められた思いが、より多くの皆さんに届き、被災地の支援となることを願っている。今後も皆さんと一緒に、この成長を見守っていきたい」とのメッセージを伝えた。

東市長の木村敏文氏が挨拶を行い、「このはるか苗木に込められた思いが、より多くの皆さんに届き、被災地の支援となることを願っている。今後も皆さんと一緒に、この成長を見守っていきたい」とのメッセージを伝えた。

東市長の木村敏文氏が挨拶を行い、「このはるか苗木に込められた思いが、より多くの皆さんに届き、被災地の支援となることを願っている。今後も皆さんと一緒に、この成長を見守っていきたい」とのメッセージを伝えた。

ウォルグリーンブーツ アライアンス 上期決算、増収営業減益 アメリカ、イギリスが苦戦、荒利益率が低下

ウォルグリーンブーツアライアンス(Walgreens Boots Alliance)の2019年8月期上期決算(2018年9月～2019年2月)は、アメリカ、イギリスで荒利益率が低下するなど苦戦したことで増収ながらも営業2ケタ減益となった。なお純利益は減税効果などで増益となっている。リテイルファーマシーUSAは、ライトエイドの店舗を大量買収したことなどで2ケタの増収となったが、GE価格の下落などの影響で荒利益率が大幅に低下したことで減益となっている。その他2部門は減収2ケタ減益と苦戦している。

グループ全体の売上高は0.8P減の4.3%、1は84.2%減の4億07.2%増の683億と収益性は低下している。100万ドルと大幅に減る。フリーキャッシュフローは11.5%減の29億1800万ドル、純利益は5.0%増の22億7900万ドルとなった。

荒利益率は1.7P減の22.5%と低下した。USA(Walgreens, Duane Reade)が売上高で2%増の18.4%と改善されている。この結果、営業利益率は9.0%減の4.6%

米、ライトエイド店舗の買収で2ケタ増収

ディビジョン別の業績は、リテイルファーマシーUSA(Walgreens, Duane Reade)が売上高で2%増の18.4%と改善されている。この結果、営業利益率は9.0%減の4.6%

第2四半期(8月～10月)の業績は、売上高が4.6%増、営業利益が23.3%減、純利益が14.3%減の増収減益だった。リテイルファーマシーUSAは、売上高で7.3%増だったが、ライトエイドの買収店舗を除くと1.6%増だった。営業利益は12.6%減となった。調剤の売上は9.8%増で、構成比は71.9%となった。調剤の既存店売上は1.9%増で、処方箋処理枚数は1.8%増となっている。調剤以外の売上は1.3%増で、既存店は3.8%減となっている。

リテイルファーマシーインターナショナルは、売上高で7.1%減となり、為替変動調整後では1.2%減だった。とくにイギリスの調剤が既存店で1.5%減と苦戦した。調剤以外でも2.3%減となっている。営業利益は22.6%減と苦戦している。

ファーマシューティカルホールセールは売上高で0.3%減、営業利益で69.0%減とやはり苦戦した。

ステファノペッシーナ(Stefano Pessina)副会長兼CEOは、「GE価格の下落など非常に厳しい状況のなかで業績は予想を下回った。このため2022年度まで年間15億ドルのコスト削減施策を実施する」と語る。